

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



杉並とアニメの深い関係

今年は初の国産アニメーション公開から100周年。今やアニメは日本を代表する文化の一つとして成長しました。最近では、劇場用長編アニメ「この世界の片隅に」が話題となったことも記憶に新しいのではないでしょうか。

実は、「オバケのQ太郎」「巨人の星」「ルパン三世」「機動戦士ガンダム」など有名なアニメ作品の多くが区内に拠点を置く会社で制作されていたことをご存じですか。28年時点で全国に622社のアニメ制作会社があり、そのうち区内には138社と、全国で最も多くの会社があります*。

区内に初めてアニメ制作会社ができたのは、昭和39年。東京ムービー（現トムス・エンタテインメント）が成田東に移転してきたことがきっかけです。アニメ制作には多くの工程があり、連携した作業が必要なため、多数の関連会社が区内に集まりました。そして今

も、区には新しいアニメ制作会社が増えています。例えば「この世界の片隅に」を制作したMAPPAも、杉並に拠点を置く若い会社の一つです。

区で設立・運営している、日本で唯一の、日本のアニメを総合的に紹介する施設「杉並アニメーションミュージアム」へ足を運んでみてはいかがでしょうか。企画展、アニメ上映会の他にもアニメの制作過程や歴史の学習までが無料で体験できます。膨大な数のアニメに関する書籍、DVDの所蔵があり、館内で閲覧することができます。多くのアニメーター、漫画家などによって壁に描かれた直筆のサインは、ミュージアムのシンボルとして一見の価値あります。

すぎなみ学倶楽部では、アニメの歴史の他にも、区にゆかりのあるアニメ制作会社をインタビューと合わせて紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

※日本動画協会「アニメ産業レポート2016」より。



すぎなみ学倶楽部 ホームページ

- ▶ 歴史 ▶ アニメのまちができるまで
- ▶ 産業・商業 ▶ 杉並のアニメ



☎産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



高井戸に生きた農の哲人！江渡狄嶺

立春から数えて88日目となる「八十八夜」は、5月2日ごろに当たり、夏に移ろう節目の日です。茶摘みが行われたり、野菜の種まきを始めたりする時期でもあり、農作業の節目となる日の目安として位置付けられています。

杉並は今ではほとんどが住宅地ですが、江戸時代には水田や桑畑等が広がっていました。特に、明治の中頃から昭和の中頃までは高井戸を中心に江戸東京野菜「高井戸節成きゅうり」が広く栽培されていました。

そんな高井戸で農業を営んでいた哲学者がいました。それが江渡狄嶺です。狄嶺は明治13年、青森県生まれ。大正デモクラシーの時代を生き、トルストイの影響を受けて、帝國大学出身ながら小作農になりました。「生活と言葉の一致」を実践すべく、農場「三蕨苑」を経営しながら思想活動を行いました。「百姓

の生活が一番正しい」と信じた狄嶺は、妻の関村ミキと共に高井戸で農業を始めます。しかし、その暮らしは過酷なもので、理想主義に幻滅。やがて、なりわいを通して人生を考える「場の思想」を確立していったのです。

狄嶺の思想を理解するのは簡単ではありませんでしたが、「自分のなりわいを通して人生を考える」という視点は人々の共感を呼び、農場には多くの著名人が訪れ、芸術家や社会主義者とも交流がありました。中でも高村光太郎は、三蕨苑内の集会所「可愛御堂」を設計するなど、親しい関係でした。

すぎなみ学倶楽部では、江渡狄嶺の生涯を前・中・後編に分けて紹介するとともに、妻の関村ミキ、江渡家で発見された当時の料理の調理法、関連記事を掲載しています。ぜひ、併せてご覧ください。(羊)



すぎなみ学倶楽部
ホームページ

▶ゆかりの人々▶江渡
狄嶺さん



国産産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



杉並で味わう世界の味

最近、杉並アニメーションミュージアムを訪ねたところ、館内に外国人の方が多くことに驚きました。区の人口も現在約56万人のうち、外国人は約1万5000人。区内でも在住者や観光で訪れている外国人をよく見掛けるようになりました。今回は外国の味に出会って感動し「こだわりの世界の味」を提供するお店を2軒紹介しましょう。

西荻窪駅近くに、「海南（ハイナン）チキンライス専門店Mu-Hung（ムーハン）」があります。海南チキンライスとは鶏のスープで炊いたご飯に大きなゆで蒸し鶏が添えられ、中国しょうゆやチリソースと共にいただくもの。中国の海南島からシンガポールなどに移住した華僑が、故郷の味として広めたといわれています。Mu-Hungの店主は、シンガポールの知人を通じて海南チキンライスを知り、試作したところ、そのおいしさに感動して店を始めたそうです。

阿佐谷北にある「Gelateria SINCERITA（ジェラテリアシンチェリータ）」は、イタリアのアイスクリーム・ジェラートのお店です。店主は、インテリアデザインの勉強のために渡ったイタリアでジェラートに魅せられ、帰国後にジェラート専門店をオープン。日本ならではの季節の食材を使ったジェラートもおすすめですが、一番の人気メニューはイタリアで開催された国際ジェラートコンテストで3位に輝いた「メルノワ」。蜂蜜の自然な甘さに、焙ったクルミが良く合います。

すぎなみ学倶楽部では、今や寿司と並んで日本の代表食となったラーメン店から本格的なフランス料理店まで、世界の味を楽しめる店を多数紹介しています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、身近な食文化からおいしい国際交流を始めてみませんか。（館）



すぎなみ学倶楽部
ホームページ

▶食



閩産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

すぎなみ学倶楽部



西荻おわら風の舞 表情豊かな西荻窪の街を楽しむ

夏の夕暮れ、西荻窪の街中で聞こえる少し哀愁を帯びた三味線、胡弓、太鼓の音色に、おわら節の唄に合わせて踊る編笠をかぶった一行。今年も「西荻おわら風の舞」が7月30日(日)に開催されます。越中おわら節同好会の方を西荻窪商店会連合会が招いたことから始まり、今年で6回目を迎えます。飛び入り参加大歓迎の輪踊りは大人も子供も踊り子と一体になれて楽しいと評判になり、今では多くの観客が沿道を埋め尽くす名物イベントとなりました。皆さんもぜひ足を運んでみてください。

さて、そんな「西荻おわら風の舞」の見物がてら、寄ることができる2つのスポットを紹介しましょう。

西荻窪駅から徒歩約3分、神明通り沿いにあるのが「コーヒーショップ豆の木」。今年で開業30年を迎えたこの店は、「豆の木でコーヒーを飲まないと一日が始まらない」という常連も多い人気店。1滴1滴、時間をかけて抽出した水出しコーヒーは、「コクと甘みがあり、雑味が

ない」と店長が太鼓判を押す一杯。おすすめのコーヒー豆を相談できるのも、地域に密着したショップのうれしいサービスですね。

都立善福寺公園は、昭和36年に開園し、上の池、下の池の大きな2つの池を中心とした水辺を楽しむことができる人気スポットです。冬季を除く週末と祝日には、手こぎとペダルこぎの2種類の貸し出しボートで池を楽しむことができます。四季を通して自然豊かなこの公園では、植物を愛でたり野鳥を観察できるだけでなく、定期的に工作教室やイベントも開催されていて、いつ訪れても楽しめる憩いの場所です。

西荻窪では、「西荻おわら風の舞」以外にも、さまざまなイベントが開催されています。イベントにお出掛けの前に、すぎなみ学倶楽部「まち別検索」で情報をチェックして、イベントと一緒に街歩きも楽しんでみませんか。(育)



すぎなみ
学倶楽部
ホームページ

▶まち別検索



閩産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



平和を願うシンボル

8月15日は終戦の日です。28年に区が発行した「杉並区戦後70年事業 区民の戦争戦災証言記録集」によると、昭和16年に開戦し、3年以上続いた太平洋戦争では、区内で計18回の空襲があり、全焼した家屋は1万棟以上、罹災者は約4万3000人と、甚大な被害を受けました。毎年この時期になると、平和の尊さをあらためて感じますが、普段何気なく歩いている区内にも、平和を願うシンボルがあることをご存じでしょうか。

高井戸中学校にある「アンネのバラ」は、生徒と地域の人々が平和への願いを込めて育てています。第二次世界大戦時にナチスの強制収容所で15歳の若さで亡くなったユダヤ人の少女、アンネ・フランクについて、国語の授業で取り上げた「アンネの日記」を通して知った生徒たちの平和への願いに込めて、昭和51年にアンネの父から寄贈されました。当時3本だった苗は、今では200株近くにまで増え、毎年5月と10月頃に校庭に美しく咲くバラ

が一般公開されます。

荻窪体育館の一角にある不思議な形の石碑「オーロラ」の碑は、かつてこの場所に原水爆禁止署名運動の拠点となった旧杉並区立公民館があったことから、公民館跡地の記念碑として建立されました。昭和29年にビキニ環礁で行われたアメリカの水爆実験に反対する原水爆禁止署名運動は、この公民館に集う区民が声を上げたことをきっかけに始まりました。署名の人数は区内外を合わせて約27万人で、そのうち区民が約21万人でした。当時の区の人口は約39万人で、半数以上の区民が署名したことになります。この活動をきっかけに、「杉並」の名が全国に知られることとなったと言っても過言ではありません。

すぎなみ学倶楽部では、戦争の爪痕を垣間見ることができる施設や、戦争体験者の貴重な証言集も掲載しています。先人から学び、平和のありがたさを実感できるコンテンツです。ぜひ一度ご覧ください。(七)



すぎなみ学倶楽部
ホームページ

▶ 歴史



岡産業振興センター 観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



台風季節！水害から身を守ろう

神田川、善福寺川、妙正寺川と3つの河川が流れる杉並区では、水害は人ごとではありません。特に9月は、台風や秋雨前線の影響で大雨が降りやすい季節です。17年9月4日、杉並区は1時間に112mmという集中豪雨に見舞われ、中野区、杉並区を中心に3つの河川が溢水し、想定外の区域で床上浸水が発生するなど、多大な被害を受けました。このような過去の教訓を踏まえて、水害について考えてみませんか。

環状七号線の妙正寺川から神田川辺りの地下には、豪雨に備えるため「神田川・環状七号線地下調節池」があります。昭和63年に着工し、完成した所から順次稼働させながら約20年の歳月をかけ、平成20年に完成しました。川が一定の水位に達したら速やかに取水を開始し、水位が下がるまで最大約54万tの水をためておける巨大施設です。また都立和田堀公園と都立善福寺川緑地にも調節池機能

を有する施設があり、水害防止に役立っています。

しかし、防災には日頃からの個人の備えが何より大切です。区では、「都市型水害に備えてー水防の手引きー」(杉並区洪水ハザードマップ)を作成しています。浸水が予想される区域のマップ、ごみ袋やプランターなど身近にあるものを使って浸水を防ぐ方法、区内5カ所の避難所の位置などが書かれています。土木計画課、各区民事務所の窓口でもらえるほか、区ホームページでもご覧になれます。

また、あらかじめ「災害・防災情報メール配信サービス」に登録すれば、大雨や洪水などの災害情報をメールで受け取ることもできます。

すぎなみ学倶楽部では、このほかにも区の防災に関する施設や対策などを紹介しています。突然の水害から身を守るために、ぜひチェックしてみてください。(な)



すぎなみ学倶楽部
ホームページ

▶特集▶ 災害・防災



☎産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部

なみすけの公式ブログ「てくてく×なみすけ」10周年!

杉並区公式アニメキャラクター「なみすけ」はいつも子供たちに大人気。イベント会場などで、次々と写真撮影に応じている姿を目にした方も多いのではないのでしょうか。

地域への愛着を深め、杉並の魅力を発信するために18年に公募で誕生したなみすけ。区民と区をやさしくつなぐキャラクターとして、さまざまな場所に登場しています。なみすけは恐竜に似ているといわれますが、実は背びれで空気をきれいにすることができる杉の木の妖精です。仲間には妹のナミー、なみきおじさん、風の妖精スピト、リンゴの芽のタネタがいます。

そんななみすけがブログでさまざまな情報を発信しているのをご存じでしょうか? 公式ブログ「てくてく×なみすけ」は、今月で10周年。なみすけのお気に入りの場所や区民おすすめの魅力的な場所を散歩して、写真で紹介しています。中には海外へのお出掛け日記もあり、ほのぼのとした雰囲気が多くのファンを癒やしています。ほか



にも漫画家のG3井田さんによる「なみすけたちの4コマ漫画」やイベント出演情報など、なみすけの情報が盛りだくさんです。

また、なみすけグッズも、Tシャツ、バッグ、文具類、お菓子などバラエティ豊かに次々と誕生しています。なみすけのイラストは、区の承認を得て、無料で商品やサービスに使用することができるので、今後もなみすけグッズの広がりが期待できますね。

すぎなみ学倶楽部では、なみすけグッズやパソコン用のなみすけの壁紙などを紹介しています。いろんな場面で大活躍のなみすけを、すぎなみ学倶楽部や「てくてく×なみすけ」から応援しませんか。(山)

▶文化・雑学▶なみすけグッズ

▶文化・雑学▶杉並のキャラクター

図産産業振興センター観光係 ☎5347-9184

クイズに答えて
プレゼントをもらおう!



11月4日(土)・5日(日)の「すぎなみフェスタ」で、「すぎなみ学倶楽部クイズ」を実施します。

クイズの答えは「すぎなみ学倶楽部」サイトのどこかに隠れている!!

解答用紙(右下QRコードから取り出せませす)を持って、すぎなみフェスタの「すぎなみ学倶楽部」のテントへ。各日先着200名に、ささやかな記念品を、また全問正解者の中から後日抽選で30名になみすけグッズを差し上げます。

さあ、いまずぐクイズにアクセスしてフェスタに急げ!

クイズはこちら

(右QRコードからもご覧になれます)



https://www.suginamigaku.org/docs/suginamigaku_quiz.pdf

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



杉並で芸術に触れよう

木々の緑にも赤や黄色がまざり始め、秋の色合いが濃くなってきました。今回は「芸術の秋」にちなんで、区内で芸術に触れられる場所を紹介します。

西荻窪駅周辺から自然豊かな善福寺公園周辺にかけて、野外アート展「トロールの森」が11月23日まで開催されています。今年で16回目を迎えたこの芸術祭は、開放感のある空間を生かしたダイナミックな作品の数々や、直接触れることのできる展示などを誰でも楽しめるアートイベントです。

阿佐谷北にある「入江一子シルクロード記念館」は、今年101歳となった現役の女流画家である入江一子さん由来の建物。アトリエも兼ねており、スケッチから制作中の作品まで、常時100点以上を鑑賞できます。50歳を過ぎてから30年にわたってシルクロードを旅して描いた人々や花々は、テレビでも紹介され話題となりました。中でも今年、

上野の森美術館で行われた「入江一子100歳記念展—百彩自在—」で展示された「四姑娘（スークーニャン）山の青いケシ」は、大きさが3畳ほどもある200号の大作で、眼前にシルクロードの一風景が広がるような迫力です。

入江一子さんの記念館から東へ、阿佐ヶ谷駅の北200mほどにあるユニークな外観の「ラピュタ阿佐ヶ谷」。1950～60年の作品を中心に上映する日本映画専門の映画館です。座席数48席のミニシアターでは、昭和の銀幕スターの特集や、監督・撮影所などのテーマに沿った上映を行うなど、その独特なラインナップには定評があります。隠れた名作を選んで上映するなど心憎いこだわりにも、常連ファンも多いそうです。

すぎなみ学倶楽部ではこの他にも区内のアートスポットを紹介しています。芸術に身近に触れることができるお出掛け先探しに、ぜひお役立てください。（館）



すぎなみ学倶楽部
ホームページ



▶文化・雑学▶杉並
のアートスポット

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

すぎなみ学倶楽部



今年を振り返って

「すぎなみ学倶楽部」は、杉並好きの区民ライターが取材・執筆する区民参加型情報ウェブサイトです。地域への愛着を深め、誇りを持って住み続けたいまちと思えるように、杉並のまちの個性や文化などの情報を発信しています。

この1年を振り返ると、ウェブサイトでも多くご覧いただいたコーナーは、①なみすけグッズ②ラー

メン③野鳥④お花見ポイント⑤スイーツでした。「なみすけグッズ」は区内外のたくさんの方に注目されていました。

また、29年は、大正から昭和初期の高井戸に住んでいた、農の哲人・江渡狄嶺の取材がきっかけで、妻の関村ミキが残した当時の料理レシピを元にメニューを再現し、区内レストランで試食会を行う

といった連携企画も実施しました。30年には江渡狄嶺が所蔵していた資料の展示会が郷土博物館分館で行われますが、「すぎなみ学倶楽部」も協力しています。

今後も「すぎなみ学倶楽部」は、さまざまな「杉並の魅力」を発信していきますので、ぜひご覧ください。

☎産業振興センター観光係 ☎5347-9184

すぎなみ学
倶楽部
ホームページ



毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



区内で楽しむ演芸まつり

新しい年が始まりました。「笑う門には福来たる」の言葉のとおり、今回はこの1年を明るく過ごせるよう、「福」を誘うイベントを紹介します。

街中が演芸場となる「高円寺演芸まつり」は、今年で8回目を迎えます。落語をはじめ、太神楽・漫才など、さまざまな分野の若手芸人を街ぐるみで応援する目的で始まりましたが、今ではすっかり杉並の冬の風物詩となりました。銭湯やライブハウス、飲食店など地元の親しみのある場所で演じられる芸を、肩肘張らずに気軽に見ることができます。歴史ある芸能も身近に感じられそうですね。今年は、2月9日から18日までの10日間、高円寺駅周辺の約60カ所の会場で行われます。

また、東京都指定有形文化財である祖師堂（1811年完成）を構える堀之内妙法寺も会場となっていますが、ここは江戸時代には厄を除く「堀之内のおそっさ

ま」として庶民に親しまれ、現在でも全国から大勢の参詣者が訪れます。毎月23日には「堀之内寄席」が行われます。古典落語「堀之内」で、慌て者の主人公が願掛けにお参りしたのが「堀之内のおそっさま」だった縁がきっかけで20年前に始まりました。木戸銭（見物料）はお菓子付きで500円。落語が初めての方も江戸の風情や当時の生活と伝統的な笑いを体験できます。また、「堀之内寄席」の日の境内はお団子やつくだ煮のお店などが並ぶ縁日でにぎわいます。家族や友人を誘って散歩がてらに出掛けるのも楽しいですね。

区内には、地域や商店街の催しが多数あります。「すぎなみ学倶楽部」ではそれらの内容や、主催者などへのインタビューを併せて紹介しています。今年は地域のイベントを訪れてみませんか。（育）



すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶文化・雑学▶杉並のイベント



毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

すぎなみ学倶楽部



続・高井戸に生きた農の哲人！江渡狄嶺

立春とは名ばかりで、寒い日が続きますね。

「すぎなみ学倶楽部」で紹介している区にゆかりのあった人の中には、寒い地方の出身者もいます。例えば、太宰治、寺山修司、江渡狄嶺は、青森県の出身です。農業思想家・江渡狄嶺（明治13年～昭和11年）は、現在の東京大学に進学しましたが、エリートコースを捨てて小作百姓となり、大正2年、高井戸村字原（現高井戸東）に農場「三篇苑」を開設します。この農場には、狄嶺の飾らない人柄を慕って、絶えず著名な文化人たちが訪れていました。

詩集「智恵子抄」が有名な詩人で、彫刻家でもある高村光太郎もその一人。光太郎は狄嶺の長女に絵を教えるなど、家族ぐるみの交流をしていました。狄嶺が亡くなったときには、狄嶺の肖像を作る約束を果たせなかったことを嘆く、心のこもった弔文を送っています。他にも、芸術家仲間と三篇苑で芋掘りをした記録も残されています。

未完の大作「大菩薩峠」が代表作の小説家・中里介山は、狄嶺の親友でした。介山が高井戸に狄嶺を訪ねた当時の記録には、三篇苑の雰囲気を感じ取り、狄嶺の人柄にほれ込む様子がざっくばらんに書かれています。2人は一緒に高尾山をハイキングするなど、生涯にわたり交遊を続けました。

すぎなみ学倶楽部では、狄嶺とさまざまな分野の著名人との交流の様子を紹介しています。また、2月17日(土)から5月6日(日)まで、郷土博物館分館（天沼3-23-1天沼井天池公園内）で、「高井戸の哲人・江渡狄嶺資料展 [1924旅]」が開催されます。今回の展示は、取材を通して区民ライターが発掘した資料の中から、狄嶺が収集した大正・昭和初期の地図、渡航パンフレット、鉄道路線図などを紹介し、狄嶺に詳しい専門家による講演会なども実施します。まだ知られていない狄嶺の新たな一面をご覧ください。（な）



すぎなみ学倶楽部
ホームページ



▶ ゆかりの人々 ▶ 知られざる偉人 ▶ 江渡狄嶺さん 【後編】 狄嶺と交流した著名人

産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

すぎなみ学倶楽部



神田川遊歩道をお花見散歩

3月21日は春分の日。暖かさと共にそろそろお花見の季節がやってきますね。

区の南部を東西に流れる神田川沿いの遊歩道は、お花見散歩におすすめしたいスポットの1つ。区内をおよそ7.9km流れる川沿いには、自転車歩行者専用道が整備され、ソメイヨシノがおよそ300本植えられています。また、神田川に面した20近くの公園と緑地でも、春の美しい花々を楽しめます。

29年4月に開園した、神田橋近くの「下高井戸おおぞら公園」（下高井戸2-28-23）には、広々とした芝生の原っぱやガラス張りで見晴らしのよい2階建ての管理棟に休憩スペースがあります。ここには、開園時に10本のジンダイアケボノの桜が植樹されました。ジンダイアケボノはソメイヨシノを親とした桜の交配種で、花の色はピンクが濃く鮮やか。まだ幹は直径約7cm、

高さ5mほどでひょろっとしていますが、将来が楽しみです。

高井戸駅のすぐ南東側、佃橋から高井戸橋付近も人気のお花見スポットです。橋の上からは桜のアーチが約200m、神田川の兩岸を覆って咲き誇る様子が見られます。高井戸橋の欄干に桜のモチーフが装飾されているのもうなずけますね。風に舞う桜吹雪を肌で感じられ、タイミングが良ければ桜と菜の花の色鮮やかな共演にも出会えます。休憩には駅の北東側にある「高井戸地域区民センター」がおすすめ。カフェ、浴室、畳やソファで休憩できる「くつろぎの部屋」もあり、一息つけます。

すぎなみ学倶楽部では、お花見ポイントや公園約40カ所を紹介しています。今年はどこへお花見に出掛けますか。 (館)



すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶特集▶公園に行こう



▶特集▶お花見ポイント



閩産業振興センター観光係 ☎5347-9184